

第3回 伊東市津波対策宇佐美地区協議会議事録

場 所：宇佐美コミュニティセンター

日 時：平成 28 年 6 月 22 日（水）19:00～

出席者：地元役員・関係団体 24 名、県関係者 10 名、市関係者 4 名

1. 挨拶

挨拶



2. 熱海土木事務所から説明

配付資料についての説明

水門については中期的対策に位置づけている。



3. 伊東市から説明

対策の優先順位についての説明

避難計画の策定についての説明



4. 話し合い（ワークショップ）

- ・資料 1 により、第 2 回地区協議会において出された、地震・津波発生時に想定される課題と対応策を確認します。その際、ハード対策の方針（護岸整備はしない）も確認します。
- ・資料 1 を見ながら、地元としての意見をまとめていくため、資料 2 を使い、数グループに分かれて意見を出し合っています。
- ・グループワークの内容は、
 - ① 対応策の抽出（新規アイデアも）
 - ② 対応策の具体化（具体的な避難ルートの特定など）
 - ③ 優先順位（短期的対策（2～3 年）、中期的対策（10 年以内）、長期的対策）づけです。



5. 意見発表

1 グループ

八幡を中心に考えた。八幡は海に近くて両側を川に挟まれていて、避難所が中学校になっているので今までこの川伝いに逃げる人と、こちらを回って逃げるひとがいる。川伝いの道は細く、訓練の時にはここを通ってくる人が多いが非常に危険である。あと、ガードをくぐらなきゃいけないので、できればこれを真っ直ぐ逃げたらどうかという意見が出た。駅を通過する時に年寄りには渡ってこられないので改善して欲しい。あと、ガード下にソーラーの街灯を付けて頂きたい。

それから、できれば真中辺りに避難タワーを1つ建ててという意見や、停電した時の為にソーラーの街灯を所々に設置して欲しい、坂道が急で階段のあるような所もあるのでスロープを設けて欲しいといった意見も出た。水門については整備してもらおう前提である。



2 グループ

2 班は塩木道・中里地区の方なのでレベル 1 の津波ではほとんど影響がないので、下の人のことまで考えて意見を出し合った。ただ、先程も話の中にあったが、水門については宮川にレベル 1 で、400mまで津波が上がってくるといった話があったので、水門を造ってもらえれば有難い。

あと、初津の地域は山が非常に切り立っていて、その前に線路があるといった状況なので避難路を整備してもらえば良いのではないかといい意見が出た。

伊東線の線路上がれる通路・道路等に階段があるのか確認が取れなかったが、上がれる場所、或いは避難タワーとかを設置する場所があればいいじゃないかという意見が出た。それから、塩木道初津線という踏切があるが、ここが初津の一部の人たちの避難路になるのではないかと思う。但し、この避難路…塩木道線が特別警戒区域の中に入っているので崖崩れ等の心配があるというようなことで、その対策は必要であるといった意見も出た。

あと、ここに宮川分園があり、園児等もいるので、ここに避難タワー等があれば地域のみなさんも、一部この辺がかかる所があるので、助かると思っている。

先程、八幡の方から話があったが、ここにガードがあり、ここは大変危険な所になると思うので、こういう所の整備をして頂ければ、八幡のみなさんも逃げやすいのかと思う。

あと、この城宿の方に、コミュニティセンターの前、中央広場という土地があるので、このような所に避難タワーを造って頂ければ、地域のみなさんが大変助かるのではないかと思う。



3 グループ

今、2 班の方が代表で初津のことを心配して頂いて有難いと思います。とても考えられないことを話してもらってありがとうございました。

このグループは留田と初津の隣同士で、ちょうど初津と留田って同じような所を持つてる…山と海を背負って、中学に避難するにしろ、川を渡っていかなきゃいけない。その川を渡るために、津波のレベル 1 でも 400m上がってくるとなると、烏川も通れない。それなら留田の場合は(国)135 号に簡単に逃げられるような避難路ができればいいと話をした。でも、家が密集しているのでその家を退かしてまで、(国)135 号まで逃げられる道ができるかどうかというのは不安だ。

初津の方の話をしてみると、2 班の方からも話があったように、初津は 2 つのブロックに分かれるのではないかと思う。岩松を境として旧道の(国)135 号とバイパスとの信号から伊東寄り山へ逃げた方がいいと思う。塩木道の避難場所は赤石さんの駐車場になっていて、避難訓練の時にはそこにまず逃げてからということになっているが、この塩木道の山がさっきの話であったように、特別警戒区域になっているということなので逃げるのが無理だと思うと、初津は 1 つ、初津の踏切から道路がありまして、車が通れない道じゃないので、その道を上って山に避難する、こちらの方が安全だと思う。

塩木道の踏切から宮川までの初津の地区は洞になっていて J R の線路が通っているが、この塩木道の踏切から宮川の八幡の所の踏切までは J R の土地で、J R に入れないようにネットが張られている。だから、途中真ん中を逃げることになるが、どうしてもこの八幡の踏切まで行ってから中学校へ避難する。で、こちらの宮川分園に行くにも塩木道の踏切を渡るか、八幡の踏切を渡っていくしかない。その間は車も通れないし、洞の状態になっているので、J R さんに交渉して、陸橋を造ってもらうか、ガードを造ってもらって線路の下を通れるようにしてもらえれば、避難するのに非常に良いと思う。

宮川分園に行くにしろ、宇佐美中学に避難するにしろ、とにかく、危険な所を通るしかないで、ここの所を考えてもらいたいと思う。その J R のネットを越えて、すぐ上の方に逃げられる、宮川分園の方にも逃げられる。今、2 班の方が言ったように、宮川分園の所に避難タワーを造ってもらえればいいと思うが、初津の線路はネットがあって、そこまで行くのにどうして行ったら良いかということを考えて欲しい。私としてはいい案がないので、土木事務所の方で考えてもらえないかと思う。



4 グループ

4 班です。留田の方のことについて、話し合おうと思ったが、時間がなくて検討することができなかった。それから、重点的な所は赤色と言われて、重点的なことを少なくしたいと思ったが、これも大切、これも大切と話し合っていくうちに、赤がいっぱいになりまして…。それもちょっと謝りたいと思う。

どういう観点から考えたのかというと、更に予想して、素早く、分かりやすくという観点で考えた。それはどういうことなのかというと、素早く、とにかく逃げるといのは、お年寄りの人が特に素早く逃げるのに必要なことで、何度も出てますが、初津の所です。で、初津の所から逃げようとして、この場所に逃げてくださいていう場所があるが、そういう場所までお年寄りってなかなか行けない。すぐ近くに高さ 10m の線路がある。でも、線路には、網が張ってあり、更に崖になっているため登れない。JR と話し合いをしてもらって、開き戸を作ってもらえると、その所に梯子とかで、いざという時にはすぐ逃げれるなら、お年寄りの人は、とりあえずはすぐに、近くから 10m の所まですぐに上がれる。横に逃げると何処まで逃げても同じ高さの 4.5m から 5m っていう所なので縦に逃げなきゃ駄目だと思う。

それから、更にここから逃げた時に、線路の所で 10m なら大体大丈夫だろうとは思いますが、これも横に逃げるしかない。そんなことをやっている間に津波が来るので、初津の人にとってはここにある山を、高い所をちょっと開いてもらってそこに避難場所を造ってもらいたいと思う。

それから、今までも話に出た崩れやすい場所がある。こういうように避難場所になっても、実際にはその場所に逃げにくいということもある。それから、観光客も当然、もし夏に津波が来たら、何処へ逃げるの？って、逃げる所が分からない。車も多いので、誘導看板が欲しい。ここから、上に上がってくださいみたいな、そういうような場所…ここは限らないが、要するに、自分たちが普段、目に付く所に誘導看板があれば分かりやすいという観点で、そういうものが欲しい。

それから、城宿の場合は確か堤防が 5m 位なので津波はそれを越して来ると思うが、高い家が避難ビルになっているが、これについても、そこが確かに避難ビルになってるってことをもっとみなさんに分かってほしい。いざ津波の訓練をすると、ここにいる人達も小学校に逃げていく。津波が来た時にも、やっぱり普段やってることしかできない。だから、津波が来た時に急いで小学校へ行ってもお年寄りは間に合うかどうか分からない。確か 5 分では学校までは行けない。そうなると、こういう所の高い所があるんだから、例えばお年寄りの、この人達はここに避難してくださいとか、ここにしますとか、そういうことをあらかじめ決めておいて、学校に避難しないでここに避難すればいいと思う。でも、そんなことをしたら助からないんじゃないか、3 階だったらどうなのか、4 階だったらどうか…といった心配はあるが、お年寄りの人は、実際に津波が来た時には「いいよ、私は」と言って、自分の家の

2階にあがって待っているというのがありましたよね、実際に。実際にはそんなに急いで動くことはできないので、近くに高い所があるなら、とりあえず助かる可能性があるので、そっちの方の道を選んでほしいということで。いつも避難訓練は学校へというやり方を変えた方がいいんじゃないかという意見が出た。

それから、この所、中央広場の避難のタワーも欲しいって話も出た。あと、その他のことだが、資料の1の所にもあったが、電線とかが切れるって書いてあるが大きな地震が来たら、何本も立ってる電柱が倒れるのは当たり前だろうと。で、当たり前だと思ってるのに対策をしないんじゃないかと、当たり前なんだけど、とりあえずは車が1番激しく通るような所については電線をとにかく地下に埋めて欲しい。

それから、海側の所については、スピーカーは大体あってそのサイレンがいざとなったら、津波って言うことがすぐ知らされるようになっていくという話なので安心したが、津波の大きさによって、鳴らし方が変わるなんて言われると、憶えていられないが、こういうふうに言ってくれた。あのスピーカーが激しく、途轍もなく、ビックリするような音でサイレンが鳴ったら、これはもう大変なことだというようなことで、とにかくこのサイレンっていうのをやっぱり意識して、とにかく、地震が近くで起きれば津波がすぐに来る、確か7分とか、9分とか、すぐに来るので、このサイレンはかなり意識しておく必要があるかと思う。

